

指定席
シネマ

「桐島です」

第七藝術劇場、なんばパークスシネマ、京都シネマ、元町映画館ほかで公開中

「夜明けまでバス停で」のコンビが描く 死に際に本名を明かした逃亡犯の軌跡

1970年代の連続企業爆破事件で指名手配されながら、「ウチダヒロシ」という偽名を使って逃げ延び、2024年、末期の胃がんで入院していた病院で本名を明かした桐島聡。半世紀にわたる逃亡生活で彼は何を思い、どう生きてきたのか？ その軌跡を「夜明けまでバス停で」の脚本家・梶原阿貴と監督・高橋伴明のコンビが、フィクションを交えて映画化した。



©北の丸プロダクション

東アジア反日武装戦線のメンバーとして爆破事件に関与、逃亡した桐島。しかし、描かれるのはテロリストの逃亡劇ではない。工務店に住み込みで働き、弱者に心を寄せて憤ることもあれば、行きつけのライブハウスではしゃいだり、若い歌手に惹かれたり。「ウチダヒロシ」として社会に溶け込み、平凡な毎日をひたむきに生きる桐島の姿から、劇中で歌われる「時代おくれ」が似合う、純粋で不器用な人間性を感じられる。桐島の20代から70歳で亡くなるまでを演じた毎熊克哉もいい。実際の手配写真に似た風貌に加え、複雑な思いを内に秘めた控えめな存在感が、桐島をより魅力的に見せている。本作の脚本に触れ、自ら出演を希望した監督の妻・高橋恵子の登場もうれしい驚きだ。

【花野エリ】